

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

2019 AUTOBACS SUPER GT Report

AUTOPOLIS GT 300km RACE

第6戦 オートポリス

ZENT CERUMO LC500

#38 立川祐路／石浦宏明

◆9月8日（日） RACE

決勝結果 4位

前日の公式予選では、予選Q2を担当した立川祐路が予想外のグリップ不足に悩み、8番手からスタートすることになったZENT CERUMO LC500。とはいえクルマ自体は悪いフィーリングではなく、決勝での追い上げを目指し午後0時55分からのウォームアップで確認を行い、14時30分からのレースに挑むことになった。



ただ、正午過ぎから少しずつオートポリスは雲が増えはじめており、いつ雨が降り出すのかも気になるポイントだった。午後2時30分のスタート時点では、晴れ間も出る曇り。迎えたスタートでZENT CERUMO LC500のステアリングを握ったのは立川祐路だ。3周目にセーフティカーが導入されるが、序盤ZENT CERUMO LC500は8番手でレースを進めた。



立川は前を走る#3 GT-R、そして#37 LC500を追っていくが、GT300クラスの集団が出はじめると混戦はさらに進む。しかし20周を過ぎる頃には、その争いに水を差すかのように、1コーナー周辺に強い雨が注ぎはじめた。コースアウトするマシンなども出

ZENT

LEXUS

TRD

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

asics

RESEAL

JMS

T-SELECT

TAMACHI

CABANA

トヨタ自動車

EBS

SHOWA
BRAKE FLUID

MECHANIC WEAR

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

るが、LEXUS TEAM ZENT CERUMO は「ウェットコンディションになるまで耐えて、レインタイヤに交換しよう」というストラテジーを立てていた。雨が降っているのは1コーナーのみで、まだピットインするには至らないと判断した立川は、スリッピーなコンディションのなか22周目に#3 GT-R、#37 LC500とバトルを展開。7番手にポジションを上げた。

1コーナーに降っていた雨はすぐに止むことになるが、30周目を過ぎるころ、ふたたび雨が強くなってくる。今度はコース全域を濡らすような状況だ。特にセクター3はかなり強くなってきた。コクピットで雨の状況を冷静に読み続けていた立川は34周目、ピットに無線で「入るよ!」と告げると、ピットロードに ZENT CERUMO LC500 を滑り込ませた。立川からの指示は「レインタイヤ」だ。



しかし、当然ながらライバルたちもほぼ同様のタイミングでのピットインとなったため、ピットレーンほまさに戦場の様相を呈していた。特にこのオートポリスはピット同士の間隔が狭く、前後のピットでも準備を行っていたことから、ZENT CERUMO LC500 はピットボックスに対してななめにマシンを止める“ダイブ”の状況を強いられた。

本来であればダイブはタイムロスもあることからあまり行われませんが、この機を逃すわけにはいかない。LEXUS TEAM ZENT CERUMO のスタッフはあらゆる状況の準備をしていたことも奏功し、タイトなピットレーンで石浦宏明に交代して迅速に作業を終えると、プッシュバックしてピットレーンに ZENT CERUMO LC500 を向ける。やや前後の間隔が近く、隣のピットの#39 LC500 と接触するなどタイムロスを喫したが、それでもダメージなくコースに戻すことに成功した。

レースはその後2回目のセーフティカー導入となるが、立川の読みどおり雨脚は強く、コース上はフルウェットとなった。他チームはピットインしていな



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

いマシンもいれば、ピット作業を終えながらもスリックタイヤでステイしたチームもあった。41 周目、リスタートを迎えると、石浦はウェットタイヤを履く ZENT CERUMO LC500 で圧倒的なプッシュをみせる。これで一気に順位は 2 番手に浮上した。



ただ 42 周目、GT300 車両のコースアウトにより、このレース 3 回目のセーフティカーが導入されたが、ここで ZENT CERUMO LC500 にとってアンラッキーな出来事が起きてしまう。トップにつけていた #39 LC500 の背後に、ラップダウンだった #16 NSX-GT が入ってしまったまま SC となってしまったのだ。しかも #16 NSX-GT はスリックタイヤを履いている。

50 周目にリスタートとなったタイミングで、ウェットタイヤを履いていた #39 LC500 は猛然とスパートをかけていくものの、濡れた路面のなかで #16 NSX-GT はスリックではトラクションをかけられず、#39 LC500 との間に大きな差が開いてしまう。ZENT CERUMO LC500 はスタートラインまで追い抜くことができなかったため、これでトップの #39 LC500 と大きなギャップができてしまった。



とはいえ 2 番手をキープできれば、チャンピオン争いにとっては大きなポイントとなる。しかし終盤、猛烈な勢いで迫った #17 NSX-GT が急速に接近。石浦はソフト寄りのウェットタイヤを履いていたことから、抵抗虚しく 2 番手を失ってしまう。さらにファイナルラップに向けて路面が乾きはじめると、今度はスリックタイヤで粘りの走りをみせていた #37 LC500 が石浦の背後から迫った。

急速にドライに転じていた路面で、石浦はファイナルラップで #37 LC500 にポジションを譲ることになってしまったが、それでもしっかりと ZENT

ZENT

LEXUS

TRD

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

asics

RESEAL

JMS

T-SELECT

TAMACHI

CABANA

トヨタ自動車

EBS

SHOWA
BRAKE FLUID

MECHANIX WEAR

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

CERUMO LC500 をコースに留めると、4位でフィニッシュした。前日の8番手からは順位を上げたこと、しっかりポイントを獲得したのは大きいですが、できれば表彰台は取りたかった。

シーズンも残すところ2戦。次戦の舞台は例年荒れたレースとなるスポーツランド SUGO だ。LEXUS TEAM ZENT CERUMO はタイトルに向け、総力を結集して挑むことになる。

ドライバー／立川祐路

「自分のスティントの序盤も雨が舞ったりする難しいコンディションでしたが、天気予報でも雨が降ると言われていたので、ウェットになるまでステイするという作戦を採っていました。そのなかで急に強い雨が降ったので、自分の判断でピットインしたかたちですね。タイミングとしては良かったと思っています。リスタートで大きな差が開いたりしてしまったこともありましたが、それさえなければ表彰台に行けた気もしますね。とはいえ、4位という結果を獲れたので、残り2戦とも勝つつもりで挑みたいと思っています」

ドライバー／石浦宏明

「序盤は苦しそうな展開だったので、雨で展開が変わればと思っていましたが、混乱するピット作業もなんとかこなし、展開を変えられたと思います。ただ、セーフティカーの際に前に1台入ってしまったことが痛かったですね。ルールなので仕方ありませんが、結果に繋がってしまったのは悔しいです。レース終盤はタイヤの内圧も上がってしまい、コースに留まるのもやっとな状況となっていました。混戦のなかでしっかりフィニッシュし、4位でポイントを獲得したのは良かったです。タイトル争いのライバルたちも得点しているので、なんとか残り2戦で上に行けるように頑張りたいと思います」

立川祐路総監督

「戦略としてはいい戦いをできたとは思っていますが、ピットでは同時に他のマシンもピットインしたためなかなか出られず、混乱のなかで危ないシーンもありました。仕方ないとは思いますが、結果的には大事に至らず良かったです。レースで表彰台に乗ることができなかったのは残念ではありますが、次戦スポ



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

ーツランド SUGO で勝てるよう、チーム一丸となって挑みたいと思います」

村田淳一監督

「8番手から上位を狙ってレースを進めましたが、ドライではそこまでポテンシャルも飛び抜けているわけでもなく、苦しい戦いになりました。ただ、雨のなかで立川選手が順位を上げてくれましたし、雨も強くなるなかで、ドライバーがいい判断をしてくれたと思っています。レース終盤は表彰台を見据える戦いできていましたが、リスタートで離されてしまったのが痛かったです。良い部分もありましたが、流れを掴めていない部分もあったと思っています。ここでまた気を引き締めて、次戦また勝ちにいけるよう頑張りたいです」



ZENT

LEXUS

TRD

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

asics

RESEAL

JMS

T-SELECT

TAMACHI

CABANA

トヨタ東大

EBS

SHOWA
BRAKE FLUID

MECHANIC WEAR

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

決勝結果表

Rank	Car No.	CarName	Laps	BestLapTime
1	39	DENSO KOBELCO SARD LC500	65	1'38.018
2	17	KEIHIN NSX-GT	65	1'36.679
3	37	KeePer TOM'S LC500	65	1'38.143
4	38	ZENT CERUMO LC500	65	1'38.326
5	8	ARTA NSX-GT	65	1'38.145
6	6	WAKO'S 4CR LC500	65	1'38.841
7	64	Modulo Epson NSX-GT	65	1'39.994
8	19	WedsSport ADVAN LC500	65	1'38.520
9	24	REALIZE CORPORATION ADVAN GT-R	65	1'38.408
10	36	au TOM'S LC500	65	1'38.410
11	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R	64	1'37.721
12	12	カルソニック IMPUL GT-R	64	1'39.150
13	23	MOTUL AUTECH GT-R	64	1'38.942
14	16	MOTUL MUGEN NSX-GT	63	1'40.200
	1	RAYBRIG NSX-GT	0	

ZENT

